

- (40)品川 恭(1988)ギフチョウの獣糞吸汁行動を観察
crude (32):31
- (41)T. M. (1987)1987年4月ギフチョウ貧果 Bug (16)
:4-5
- (42)杜 隆史(1987)兵庫県神崎郡朝来郡における採集記
録 のせ(149):42
- (43)京都大学蝶類研究会(1987)日本産蝶類238種の記録
SPINDA (1):9~41
- (44)谷角素彦・黒井和之(1987)但馬産ギフチョウのウス
バサイシンへの産卵例 TRATSU
M (11):102
- (45)京都蝶の会(1985)京都蝶類採集記録リスト追加デー
タ 杉峠(9):2
- (46)渡辺康之(1979)兵庫県・武田尾周辺のギフチョウ
昆虫と自然14(2)
- (47)紅谷進二(1971)兵庫県植物目録 六月社書房 大阪
- (48)兵庫県生物学会(1981)播磨の植物 神戸新聞出版セ
ンター 神戸
- (49)神戸新聞社(1989)ギフチョウ優美な羽化 神戸新聞
4月7日朝刊

県下に於ける蝶数種の 産卵に関する記録

広畑政己

1 キタテハが枯草に産卵

1986年6月8日に姫路市打越にて枯草に産卵する本種を観察することができた。通常は食草の葉裏に産卵されるが、¹ このような例は珍しいと思われる。食草に産卵しようとして間違っすぐそばの枯草に産卵したということではなく、後をつけて観察していると3ヶ所で枯草に産卵し、1卵も食草には産卵せずとび立っていった。

2 クロアゲハが食樹の幹に産卵

福田他(1982)によれば、普通卵は食樹の葉裏に1個ずつ産みつけられ、時には葉表や若い茎にも産卵されることが記されている。

1987年8月26日に姫路市打越にて写真のように幹の直径が約2cmもあるミカンに産卵する本種を目撃した。産卵したのは8卵であった。これまで葉や葉柄には何回となく産卵するのを目撃しているが、このように幹(樹高約2mの幼木)に産卵するところを観察できたのは初めてである。



食樹の太い枝に産卵されたクロアゲハの卵

3 ミドリシジミの産卵行動

古い記録になるが1978年6月24日午後3時30分ごろ姫路市御立北山にて本種の産卵行動を目撃した。本種はzephyrusの中でも分布が広く、目にふれることも多いので産卵行動の観察例も報告されていると思うが産卵時期、産卵時間など参考になればと報告した。

産卵したのは先端が切り取られた樹高が約1.5m、幹の直径が約5cmのハンノキで、飛来した個体はハンノキの葉上にとまり、葉から小枝へ、小枝から太い枝へと頭を前にして進み、枝の分岐部やくぼみに尾端を前後左右に動かしながら、産卵箇所を認識し、1卵〜3卵を産付していった。産卵行動は約5分間続いたが産卵数は少なく10卵産卵した後飛び去っていった。

ヒサマツミドリシジミやハヤシミドリシジミのように産卵時期が遅い種もあるが、本種は羽化後はあまり期間をおかずに産卵をするようである。

(参考文献)

- (1)福田晴夫他(1983)原色日本蝶類生態図鑑(Ⅱ)保育社 大阪
- (2)福田晴夫他(1982)原色日本蝶類生態図鑑(Ⅰ)保育社 大阪

Masami Hirohata

姫路市